リーディングDXスクール事業 【実践事例】

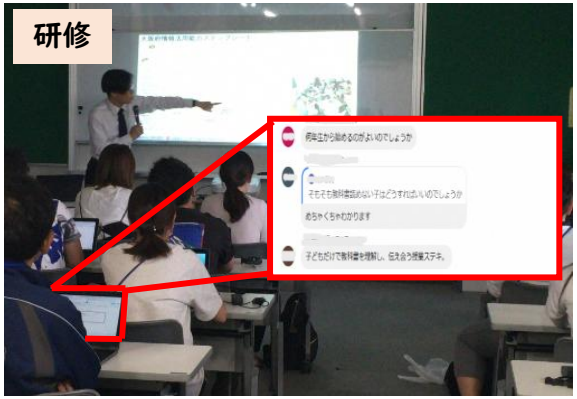
東大阪市立布施小学校【指定校】

【取組み内容】校務DX（業務や実践の情報にグループチャットを日常的に活用）

校務におけるチャットの活用が授業改善につながる

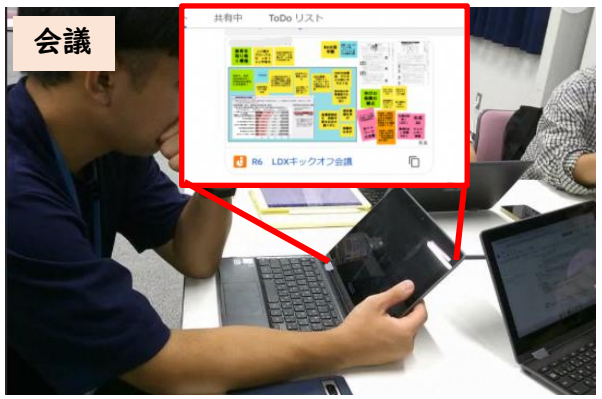
まずは慣れる
～研修で学びを随時アウトプット～

職員同士がつながる
～資料や授業実践などの情報を即時共有～



アドバイザーの研修を受講しながら、大事なことや感じたことをチャットにアウトプットしている。ただ聞いているだけでなく、自分ごととして研修に参加できる良さがある。
チャット機能を今後教員がどう活用していくかを考えるための機会としても効果的である。

教員だけでなく、アドバイザーや指導主事もグループチャットに参加し、授業の実践アイデアを日常的に共有している。つまり、情報が集まる場となり、クラウドを活用することで「非同期・分散」で、効率的に学ぶことができる。



資料は事前に共有されているので、ペーパーレスで印刷時間等の短縮につながる。また、常に最新の情報を職員で共有することができるだけでなく、チャットのやりとりの記録が残っているので、会議に参加できなかった教職員も後日振り返ることが可能になり、大いに役立っている。

校務におけるチャットの活用は教職員間で授業のアイデアや実践事例を迅速かつ手軽に共有できる。効率化されて生み出された時間を活用して教材研究等に充てることが可能となり、授業改善が促進される。